



# 桶川東中だより

☆☆令和6年度☆☆

桶川東中学校通信 No.3 発行：6月12日(水)

## 唯一無二の今、どう取り組むか

校長 家徳 丈夫

6月になり、暑さが厳しくなってきましたが、この後、梅雨の期間もあり、体調管理には十分留意しなければならない季節となりました。先日の体育祭では、生徒の皆さんにお話しした「今できるベストを尽くす」こと、「お互いの頑張りを認め、応援する」こと、「全校生徒で心に残る思い出にする」ことの3つとも達成でき、まさに素晴らしく、見ている人の心に響く体育祭になったと思っています。生徒の皆さんの頑張りに敬意を表するとともに、感謝いたします。また、保護者の皆様をはじめ、地域の方々にも大勢、ご来校いただき、感謝しております。ありがとうございました。

この後には、部活動の大会やコンクール、期末テストもありますので、体育祭のテーマにもあった、いろいろなことに「挑夢（挑む）」時です。これからも生徒の皆さんの活躍を大いに期待しています。

さて、今月の末には、多くの運動部が学校総合体育大会の班大会に臨みます。3年生にとっては、最後の大会となりますが、先日の全校集会で校長から話をしましたので、その概要を紹介いたします。

### <全校集会の講話より>

本日は、大会に「挑夢（挑む）」にあたり、今日から大切にしてほしいこととお話しします。すでに、班大会を終えた部もありますが、多くの部では、今月の26日からの班大会・地区大会に臨みます。あと2週間と少しの準備期間となりますが、この期間の取り組み方は、大会に向けて、とても重要になると考えています。あと少ししかないから、「練習しても強くなれない」とか、「上手になるはずない」と考える人もいるかもしれません。確かに、技術が急に上達したり、チームが劇的に強くなったりする可能性は、高くないかもしれませんが、しかしながら、一日一日の積み重ねで、一人一人が上達し、チーム力も向上するのですから、たとえ期間が短くても、一生懸命に取り組んだことは、自分の、そして、チームの力になるのではないのでしょうか。すべては、皆さんの意識と取り組み方だと考えます。

そこで今日は、皆さんに「唯一無二の今、どう取り組むか」を考えてほしいと思っています。「唯一無二」とは、「ただそれ一つだけしかなく、二つとないもの」を意味します。例えば、皆さんにとっても、私にとっても、今日この時は、二度とない瞬間であり、それが「唯一無二」ということです。

現在、スポーツ解説やタレント活動をしている松岡修造さんは、元プロテニスプレーヤーですが、世界の4大会の全英オープンで日本人初のベスト8に入った選手です。その松岡さんが、試合の中で「唯一無二の一球なり」と叫んだことは、有名な話として今も語られています。自分が影響を受けた漫画「エースをねらえ」で、使われた言葉を用いたと言っています。

もともとこの言葉は、早稲田大学のテニスプレーヤーで、第1回全日本選手権で優勝した福田雅之助さんが、1941年に、母校である早稲田大学の庭球（テニス）部に贈った「庭球規（訓）」に、その全文が書かれており、この言葉がもとになっているようです。紹介します。

### 福田氏の言葉を引用

この「絶対無二」が「唯一無二」となり、今でもいくつか強豪校の部で、スローガンのように使われており、「唯一無二の一球」「唯一無二の一蹴」「唯一無二の一打」などがあります。

すなわち、「唯一無二」を意識して取り組むことで、①ここぞという時に力を発揮することができるようになる、②二度とない今の機会を大切にすることから、後悔しないようにプレーすることができるなど、普段の練習から「唯一無二の今、どう取り組むか」が、試合でのベストパフォーマンスにつながる鍵となるのです。

では、具体的には、どうしたらよいのでしょうか。それは、毎日毎日の練習で、試合の場面を意識して、「そのプレーが、試合で出せるように取り組む」ことです。（中略）

3年生にとっては、中学校での最後の大会です。今からでもいくらでもできることはあります。「唯一無二の今、どう取り組むか」考えてみてください。また、1・2年生の皆さんも、令和6年度の大会は「唯一無二」です。3年生と同じ気持ちで取り組むことで、得られるものも違ってきます。まさに、チーム一丸となって、「唯一無二の今」を大切にしてください。

### 6月の生活目標

健康・安全について留意して生活しよう  
身の回りの整理整頓をしよう

### 重点目標

時間を守る  
二分前着席の徹底

